

ア ジ ア 養 蜂 研 究 協 会

第3回 AAA 大会
ファーストサーキュラー

昨年(1995)の第2回大会において次期開催国となったベトナムでは、関係者の努力により農業食糧産業省から開催許可があり、第3回大会の準備が進められている。まもなくファーストサーキュラー(英文)も印刷されるのでその概要を紹介したい(講ったがあれば送付できます)。

テーマ: ミツバチ, 養蜂と持続的農林業開発

会 期: 1996年10月6日~10日

会 場: ハノイ市ホーチミン博物館

参加費:

参加者は1996年8月30日まで US\$150

それ以後は US\$200

同伴者はそれぞれ US\$100, US\$150

公用語: 英語

発表申込み: 英語 500語以内の要旨を1996年

6月30日までに玉川大学ミツバチ科学研究施設に提出する。

分科会: アジアのミツバチ

養蜂振興計画

セイヨウミツバチによる養蜂

ミツバチ管理法とその経済

ミツバチ生産物と販売

—アジアにおける展望

養蜂植物と花粉媒介

その他

展示会: 大会期間中ミツバチ生産物, それを利用した製品, 書籍, 関連器具, 写真, ポスターなどの展示を行う。約3×4mの展示用スタンドが用意される, 出展料金は未定。

宿泊施設: 会場のホーチミン博物館は首都ハノイの政治の中枢ともいえる地区にあり, 市内には最高級ホテルから経済的な宿まで幅広い宿泊施設がある。詳細は来年3月発行のセカンドサーキュラーに紹介予定。

研究施設紹介(3)

ベトナムミツバチ研究開発センター

農業食糧産業省(MAFI)の一部門であるミツバチ研究開発センター(Bee Research and Development Center, Lang ha, Dong da, Hanoi)は1984年にミツバチ研究の中心組織として設立され, 基礎, 応用研究, 新技術の移転, 養蜂研修事業, 出版, 雑誌の発行等を行っている。現在の主なテーマは養蜂植物と各種ミツバチの現状調査, 病害対策, 蜂群管理と生産物収穫技術の改良, 生産物加工処理法, 養蜂経済研究である。ハノイ大学, ハノイ農業大学, トウドック農林大学(ホーチミン市)等と毎年共同研究を行う。一例ではトウドック農林大学のミツバチ研究施設はベトナム南部のトウヨウミツバチとセイヨウミツバチの養蜂の経済性を比較研究したが, BRDCは北部での伝統的家族養蜂の経済性を調査し, 家族養蜂振興に役立てようとしている。

MAFIでミツバチ生産物の生産, 加工処理, 販売, 輸出を担当するVietnam National Apiculture Corporation(VINAPI)とも緊密に協力している。BRDCが新しいミツバチ生産物加工品の先行実験に取り組み, 必要な機器を導入しデータを得るとVINAPIはそれを基に実際面での応用を進める。水分の多いハチミツを輸出基準に合うよう調製する問題もこのシステムで解決された一例で, 現在VINAPIはトーマ社製(仏)の水分乾燥機で調整したハチミツを輸出している。

季刊誌“Nganh ong”の発行, 養蜂の手引き書, 分かりやすいスライド, ビデオの制作, 各県の養蜂組合, 養蜂産業等への情報提供, 新技術の指導等で内外の養蜂, 加工処理技術など最新情報を各地に広めている。現在貧しい農民に副収入と雇用機会を与え, 同時に栄養化の高い食品を手に入れやすくすることを目的とした家族養蜂運動に取り組んでいる。